

入中1年人権だより

徳島市 八万中学校
1年生 第4号
2022年 7月 4日
編集・文責 吉成正士

6月21日に、1年生人権作文発表会が開催されました。1年生全員を前に登壇し、作文発表してくれた6人のみなさん、ご苦労さまでした。でも、本当に立派に、堂々と発表できていましたよ。なお、次のみなさんが、発表してくれたみなさんです。

組	名 前	題
5	酒井 晴生	考えを次につなげる
1	西 佑太	目指せ！ネット差別ゼロ
4	田中 美結	児童労働について考えたこと
2	中村穂乃叶	愛に性別は関係ない
3	宮本 風香	経験を生かして
6	西川承太郎	悩みを話せる人を探して

また、勇気ある発表に、それぞれの思いを返していたみなさんも良かったです。発表しっぱなしでは、みんなにどう伝わったか分からず不安になりますからね。「打てば響く」そんな関係を大切にしてほしいなと思います。

さて、これから人権作文発表会の感想を通して、3枚にわたって、人権だよりを読んでもらおうと思います。まずは1枚目を、どうぞ。

人権学習は、自分を変える学習

■私は人権作文発表会での発表を聞いて、特に1年2組の中村穂乃叶さんの「愛に性別は関係ない」という作文が印象に残っています。ある外国の人の「魂が惹かれあっただけ」という考え方は、日本の同性愛を認めない考え方と違い、とても素敵でいいと思いました。男性の体なのに女性のような心の人や、女性の体なのに男性のような心の人もあるように、たまたまその体にその魂が入って、たまたま惹かれあっただけという考え方ぐらいで捉えればいいと私は思います。

ほかにも、中村さんの作文で冒頭に話していたゲイのカップルの人のYoutubeチャンネルがあると聞いて、批判する人もいるかもしれないのに堂々と自分の価値観(考え方)を周りに見せていて、とてもすごいと思いました。

この人権作文発表会で発表していた人の作文は、全員具体的なわかりやすい例を出していて、すごいと思いました。また自分にもできることを書いていた人が結構いたのもすごいと思いました。今回の発表は、共感できる場所が多くて聞きやすかったです。発表者全員の内容が分かりやすくて、そして中身のある会話で、聞いていて「そういう考え方でもできるんだな」と思いました。この発表した内容も踏まえて、これから人権のことについて少しでも何かできたらいいと思います。

(4組生徒)

じゃあ中学生集会に行きましょう！

大切なことは、「具体」です。「私」を語ることで。「私」の中にある、本当の思いを出し合うことです。そのためにも、「私」をよく見つめなければいけません。自分の内面と向き合い、自分の中の自分と対話することです。自問自答することです。自分に素

直になり、その素直な気持ちに従い行動しなければならない、そう思えるようになっていきます。

人権学習は、自分の気持ちと行動を、自分の内面と外面を、一致させてくれる学習です。だから、勉強もするようになる。そして学力が上がる。部活動もやられてやる活動から、自主的にやる活動へと変わっていく。人権を通して世の中が見えてきて、社会にも関心を持つようになる。新聞や本を読むようになる。人の話を聴くようになる。自分の思いを持ち、それを書き、語るようになる。人間的に成長し、自分の人生を自らの力で切り拓くようになる。それが人権学習です。

人権学習を前に立ちすくむのではなく、一步を踏み出してみませんか。堂々と自分の価値観をカミングアウトしているマイノリティのように。もしそれができたなら、それが、この学習をした成果です。この学習は、「自分が変わる」学習なのです。

行動に移す行動とは、どんな行動？

■僕は5組の酒井晴生さんの発表を聞いて、障害者も他の人と平等に、差別されることなく楽しく生活できることは大切だと思った。障害者へ嫌な目を向けたり、差別したりするのではなく、「気遣う心」で相手の立場に立って考え、行動に移す。ほかにも障害者の意見に耳を傾ける。誰もが一人一人の特性を持っていることを理解し、その特性を尊重する。このようなことを、考えるだけでなく、行動に移すことが大切だと思った。

西さんの「インターネット(SNS)での差別」も同じように、インターネットであっても、相手の立場になって、相手の嫌がることは書かない。これは、西さんの言っていたように、とても簡単で、誰にでもできることだと僕は思う。インターネットでは、「自分がいじめている、からかっている」という自覚が薄かったとしても、「送信する前に読み返す」など、自分でできることはどんどん積極的にやっていったら、周りの人にも広がっていくと思う。自分は関係ないと思うのではなく、自分から「悪いことは書き込まない」これを、これから心がけようと思う。自分からしていくと、いずれ周りの人にも伝わり、やがて世界にも広がっていくと思う。「他人事ではなく、まずは自分から」相手のことを考えようと思う。(4組生徒)

日ごろ見かけないような人や物を見かけたとき、じっと見てしまうこと、ありませんか？日ごろ見かけないものに対して、「何だろう？」「どうなってるんだろう？」と思うことは、ごく自然な行為のように思います。それは生物の本能としての、危機を察知する能力のようにも感じます。だから、日ごろ見かけないような人種や障がい者を見かけると、一瞬じっと見てしまう。それは私たちが、私たちのような人種がいない地域に行ったときに、逆にじろじろ見られるのと同じです。だから、当たり前前の行為だと思うのです。だけど、相手には不快な思いをさせてしまう。自分も不快に感じてしまう。ではどうすればいいのか…？

そもそも、障がいのある人は、見かけないくらい「い

ない」ものなのでしょうか？違います。実は本当は、もっといるのですが、外に出られない原因があって見かけないだけだったりするのです。それは、道路だったり、町のつくりだったり、偏見のまなざしだったり。もっと外に出られる環境があれば、当たり前みなさんの目に映るはず。そうすれば、みなさんにとっても、それが「当たり前」になりますから、じろじろ見る必要もなくなるのだと思います。

みなさんと同じ年の障がいを持つ子たちも、地元学校に行かずに(行けずに)、支援学校に行ってるケースが多いです。だからあまり見かけません。でも、本当はいるのです。本当は「いる」のに、「いない」ようになっている、この社会のありようを変えていくことが、「じろじろ見ない」ことにつながっていくのではないかと思います。障がい者がいることが、「当たり前」の社会になっていくこと、そういう社会にしていこうことです。

かわいそう、かわいそう、かわいそうって…

■今日、人権作文発表会で6人の発表を聞いて、いろいろな考え方に出会いました。6人ともが全然違う内容だったけど、根っこは同じと吉成先生が言っていました。自身の経験を生かして発表していたり、人を思いやって発表したり、そして発表の後の意見交換でたくさんの人が自分の考え・感想を発表していて、すごいと思いました。

インターネットについての発表で、「インターネットに悪口を書かなければいいだけ」というネットの差別をなくすための言葉が、本当にその通りだと共感しました。

そしてみんな、いじめを見つけたら止めるというけれど、実際に止められる人は一部の人だけだと思います。見て見ぬふりをする人が多数いると思います。私も止められるかと聞かれたら、止められないと思います。なぜなら、もし止めてしまったら、次は自分がいじめられてしまうかもと思うからです。でも勇気を出して止めることで、一人の子を救えると思うと、止めてくれる人が増えると思います。私はいじめや差別されている人たちのことを、「かわいそう」と思っていたけど、「かわいそう」って言葉はとっても他人事みたいな言い方だと思って、それから私は、差別されている人のことを他人事として考えず、自分にできる小さなことを考えて実践していくことを意識しています。 (6組生徒)

なら、中学生集会に行きましょうよ。それも、小さいかもしれませんが、大きな一歩です。

いじめ、止められるかどうかなんて分かりませんよね。けど、自分で無理ならせめて一言、頼れる誰かに相談してみませんか。それだけでも、その子を救ったことになりますから。一人で抱え込もうとするから、「無理だ」と思うのです。でも、立ち向かえる人が大勢になれば、止められるように思いませんか。一人で無理なら二人で。二人でも無理なら三人で。三人でも無理なら大勢で。仲間をつくる力です。そんな力をつけることも、人権学習は教えてくれます。

いじめを止められるか、と考えていますが、もし自分がいじめられている側だとしたら、自分はどうしてほしいのでしょうか。そのことを考えに入れることが大切ではないでしょうか。

昔、部落差別をなくす取り組みをしていたとき、あ

る会で被差別部落出身の方が、ご両親の生きざまや自分の生まれ育ち、我が子への思いを本当に真剣に、思いを込めて語ってくれたことがありました。

その話を聞いたあと、ある方が、「お気の毒に、かわいそうですね」とだけ、感想を言いました。「へっ？」と思いました。「それだけ？」と。「今の話を聞いてそれだけですか？」と、私はプチ切れてしまいました。「かわいそう」が、いかに傲慢(ごうまん)で、上から目線の、他人事の冷たい一言であるか。

実はその会は、その方の意識が少しでも変わるようにと設けられた会だったのですが、残念ながらその方の心には響きませんでした。怒って済むことではなく、何か別のアプローチでその方に迫らなければならないのですが、その時はそれが精一杯でした。

人の意識を変えるのは本当に難しいものです。でもそれは、自分が試されているということでもあります。自分がどこに立つのか、本当に差別解消を願っているのか、他人事なのか自分事なのか、それが試されているのだと思います。

こういう場があったからこそ

■僕は人権作文発表会に参加して、全員の発表がそれぞれ違っていて、いろいろなことを学びました。そして気づいたのが、こういう場をつくって、皆で意見や感想を広めて、たくさんの人で解決していくことが大事だと思いました。

そして、今回の発表してくれた6人のなか、全員とても良い発表だったけれど、一番心に刺さったのは、酒井くんの発表でした。まず酒井くんが言っていました。いつも当たり前にしていることは、とてもすごいことだと言っていました。僕はその言葉を聞いた瞬間、どういことだ？？と思いました。でも、あとあと考えてみると、とても大切なことを言っていたと分かりました。自分も今歩いて、字を書けて、物を持って、そのことがすごいことだと思いました。だから何かに自信がなくても、自分はすごいんだと思ったりいいと思いました。でも、こういうことを気づかせてくれたのは、こういう場があったからです。だから、この経験を無駄にしないように、これから、今日発表してくれたことを生かしてやっていこうと思います。(6組生徒)

そう思うなら、中学生集会にも行きましょう。もっと大勢との出会いが、あなたを待っていますよ。

ここまで成長すること自体がすごいことです。みんな、ここまで大きく成長するのが当たり前のようになっているかもしれませんが、そうはなれずに、生まれる前に、生まれたすぐあとに、成長する途中で、悔しくもつなげなかった命もあるのです。

また、今まで成長できたからといって、このあとも普通に、当たり前で成長していける保証はどこにもありません。だから、今この瞬間の奇跡に、全力を尽くすのです。誰かの命の分まで、とは言いませんが、せっかくなのでできた命です。自分の思うように、全力で生きてみてもいいのではないのでしょうか。反省することはあっても、悔いのないような人生を、毎日を、生きてみてもいいのではないのでしょうか。あなたは今日、全力で生きられましたか？明日はどう生きますか？ 毎日はその繰り返しと、積み重ねなのです。

(第5号につづく)